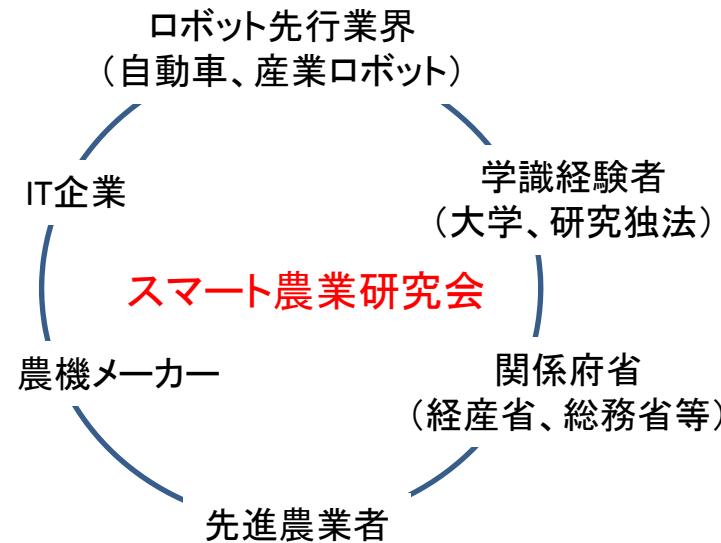


スマート農業の推進について

■ スマート農業研究会における検討



中間取りまとめ（平成26年3月）

1. スマート農業の将来像
2. スマート農業の実現に向けたロードマップ
3. スマート農業推進に当たっての留意点(課題等)

推進に向けた取組

1 研究開発・実用化



(例)GPSによる自動走行システム、アシストスーツ、除草ロボット等の開発、実用化

2 生産現場への導入



(例)ICTの導入による生産や品質管理の高度化・効率化の実証 等

3 残された課題の検討



(例)トラクターの有人-無人協調走行の実現に向けた安全性確保策の検討 等

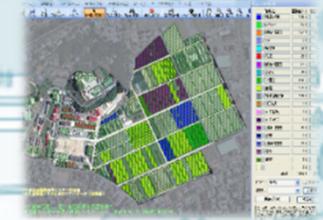
スマート農業の将来像

1 超省力・大規模生産を実現



GPS自動走行システム等の導入による農業機械の夜間走行・複数走行・自動走行等で、作業能力の限界を打破

2 作物の能力を最大限に発揮



センシング技術や過去のデータに基づくきめ細やかな栽培により(精密農業)、作物のポテンシャルを最大限に引き出し多収・高品質を実現

スマート農業

ロボット技術、ICTを活用して、超省力・高品質生産を実現する新たな農業

3 きつい作業、危険な作業から解放



収穫物の積み下ろしなどの重労働をアシストスーツで軽労化するほか、除草ロボットなどにより作業を自動化

4 誰もが取り組みやすい農業を実現



農業機械のアシスト装置により経験の浅いオペレーターでも高精度の作業が可能となるほか、ノウハウをデータ化することで若者等が農業に続々とトライ

5 消費者・実需者に安心と信頼を提供



クラウドシステムにより、生産の詳しい情報を実需者や消費者にダイレクトにつなげ、安心と信頼を届ける